

From: chatnoir@platz.jp
Subject: 旧大竹酒造の建築について
Date: 2006年6月16日 10:34:55:JST
To: webmaster@kahaku.go.jp
Cc: tegami@city.maebashi.gunma.jp, houdou@jomo-news.co.jp

国立科学博物館 清水慶一様
前橋市長 高木政夫様
株式会社上毛新聞社様

私は旧大竹酒造の最後の経営者で、大竹幸一郎と申します。
昨2005年年春、事情あって不動産を有限会社アートホームに売却し、
その後同年12月18日まで住まいしながら適切な管理を心がけ、
レンガ蔵保存に情熱的な方々の背後から支援してきました。

当該レンガ蔵については、ウェブページの『レンガ蔵と煙突のある風景』
<http://chatnoir88.web.infoseek.co.jp/rengagura/> に
資料と写真を掲載してありますので、ご参考にいただければ幸いです。

さて、昨日（6月15日）付の上毛新聞の記事を拝見したところ、
資料の不足からの誤解と思われる事項が散見されましたので、
旧大竹酒造の建築物の過去を知る人間として、
僭越ながらお伝え申し上げます。

洋式の煉瓦造りの外観ではありながら、
在来の日本建築による建物であることの重要性は、
特定非営利活動法人 街・建築・文化再生集団（RAC）の主催者の一人である
中村先生の調査で前橋市教育委員会等に報告されました。
中村先生については、
RACのウェブサイト <http://www.gunma-npo.org/rac/> をご参照下さい。
その調査によって母屋の大黒柱の棟札から、
大正12年4月30日上棟、施主が曾田軍平、頭領が庄次郎と判明しました。
記事に「昭和初期に建てられて商店」とありますが、
店舗兼住宅である母屋が主建造物であって、
レンガ倉庫は、その附属建物として位置づけられていました。
従って母屋の建築は大正12年であります。

「コンクリートの補強など補修も多くある」について、

倉庫東側上部のコンクリートは、
レンガ蔵に接して建築された重量ブロック作りの新蔵の除却痕であります。
新蔵は昭和32年に建築され、
酒造検査室、酒母室、製麴室、補助発酵室からなりました。
新蔵は酒造りを廃業後、昭和52年に除却しましたが、
レンガ蔵に傷つけることなく接合部分のみを切り取ることが不可能であったため、
一見したところ補修の痕のような形で残されたものです。
コンクリートによる補修は、西側のごく一部に認められます。

母屋及びレンガ蔵に使用の瓦は、俗に越後の踊り瓦と呼ばれるもので、
屋根の補修に際しては同等のものを得ることは不可能であります。
そこで母屋の外壁を補修する際に1階北側の屋根をカラートタン張りに改めて、
取り外した瓦を煉瓦造りの煙突の北側の戸の内側に保管してあります。
レンガ蔵西側の数メートルのところの屋根瓦に破損箇所がありますので、
この保存した瓦で補修されると宜しいかと存じます。

当該レンガ蔵の来歴は、先に述べた曾田軍平氏によって酒蔵として建造され、
その後上毛貯蓄銀行の所有になっていました。
これを私の祖父大竹金次郎が昭和8年に買い受けたものであります。
この間不動産売買に関する公正証書等の記録は私が保管しておりますが、
昭和8年以前のことは伝聞によります。
私に伝えたのは、曾田軍平氏と親交のあった合名会社佐藤清治商店の代表者で、
土地の選定当初からの事情を繰り返し語られました。
正直に申し上げますと、辟易したのも事実であります。
今回ご連絡申し上げる皆様方におかれましても、
辟易とされることなく、私のお伝えする内容をお汲み取り頂ければ幸いです。

平成18年6月16日

大竹幸一郎

〒371-0134 前橋市小神明町678-8
chatnoir@platz.jp